



## アルキメデスから考える「働き方改革」

私たちは、これまで算数・数学等において様々な公式に出合ってきています。数学になると公式もハイレベルとなり、私の頭はよくショートしていました。私たちが何気なく使ってきた公式などが生まれた背景には、面白いエピソードもあります。今回は、世界三大数学者の一人、アルキメデスについて紹介します。

アルキメデスは 2000 年以上前の天才数学者です。当時「てこの原理」や「円周率」を証明していますし、現代にも「アルキメデスの原理」・「アルキメデス・スクリュー」といった名前が残されています。アルキメデスと言えは定番の、裸で「エウレカ!」と叫んだエピソードを紹介しましょう。



「エウレカ (Eureka)」はギリシャ語で、「分かった」「発見した」といった意味を持ちます。イタリアのシチリア島シラクサの王ヒエロンは、金細工職人に金の王冠を作らせました。しかし王は疑い深く、「本当に金だけで作ったのか?他の物質(銀)が含まれているのではないか?」と考えます。王はアルキメデスに、王冠を傷つけずに確かめて欲しいと依頼します。アルキメデスが難問の答えを見つけたのはお風呂に入っているときでした。王冠と同じ重さの金を水に入れ、溢れた水の量を測ればよい!複雑な形状でも浮力を利用することで解決できる、そう分かって興奮したアルキメデス。お風呂を飛び出し、裸のまま「エウレカ(分かった)!エウレカ!」とわめきながら王のもとへ走っていったのです。結局、金細工職人は金をごまかしており、死刑にされたとのこと。この話は「黄金の王冠」と呼ばれ、原理は「アルキメデスの原理」として有名になりました。現在も金やプラチナの含有量を調べる手段として「アルキメデスの原理」が使われています。

ここから何が見えてくるのかと言えは、アルキメデスは、自宅でリラックスしているときに、大発見をしたということです。つまり「金の純度を調べる業務」の解を「業務時間外」に得たということです。人間は、一旦気になることは常に意識の根底にあります。ここで二つの選択肢が生まれます。

- ①業務時間外に業務のことを考えさせられ、その業務が終わらなかったことの苦痛
- ②業務時間外に業務のことを無意識の中で考え、ふといいアイデアを閃く喜び

人間の脳の働きは止まることはないと言われていています。人は自分の生活の中で、様々なことを学び、自分を形作っています。だからこそ、アルキメデス的に「働く」ということは、単に自分の仕事に関するだけでなく、あらゆるものに興味を持ち、身の回りに目を向け、少しのリラックスの時間を大切にすることだと考えます。それによって、上記の②の思考へとシフトし、働くことへ生き甲斐も増してくると思います。

だからこそ、「子供と向き合うための『働き方改革』」が今求められているのです。